大学創立50周年記念公開講座『宇宙塾』Mission4・Mission5・Mission6を開講しました

さまざまな可能性を秘めた宇宙を身近に感じ、すばらしい未来に思いをはせる、全10回のシリーズ講座「宇宙塾」。

宇宙航空研究開発機構（JAXA）技術参与として国際宇宙ステーションの応用利用計画を推進し、現在も研究総括を務める澤岡昭学長が塾長を務め、毎回宇宙について魅力を語ります。

7月9日（水）に開講したMission4のテーマは「国際宇宙ステーションと宇宙生活」。国際宇宙ステーション（ISS）の船長を務めた若田光一飛行士のISSでの生活（睡眠用個室でくつろいでいる様子や食事、また献身的にトイレを掃除している姿など）を写真を用い話しました。

9月10日（水）にはMission5「無重力の世界」を開講。始めに澤岡学長が1999年、三菱重工製ビジネスジェット機MU-300の弾道飛行で短時間無重力実験を行った際の写真や若田光一さんが2009年、宇宙ステーションの中の宇宙実験室で魔法のじゅうたんの実験を行った際の写真などを披露。その後、無重力状態ではどういうことが起こるのか、以前日本では地下で無重力実験が行える施設をもっていたことなどが紹介されました。

10月8日（水）はMission6「日本のロケット開発」を開講しました。今回の講座は、講座前日に打ち上げられた気象衛星“ひまわり8号”の話題からスタート。澤岡学長は、ひまわり8号の打ち上げを受けて、テレビ局から取材を受けることになっていたが、ノーベル賞受賞のニュースが入り、今回の取材はなくなってしまったという裏エピソードを披露。液体燃料ロケットと固体燃料ロケットの違いやそれぞれの歴史について、11月末に打ち上げ予定の小惑星探査機“はやぶさ2”について、スペースX社による宇宙飛行士を運ぶ有人ロケットの開発についてなどを話されました。

毎回40人を超える塾生の参加があり、専門的な質問が数多く寄せられています。

大学創立50周年記念事業 講演会「デンマークの家具デザイン」を開催しました

7月2日（水）、大学創立50周年記念事業／講演会「デンマークの家具デザイン」を本学ゴビーホールで開催しました。会場にはデザインを学ぶおよそ60人の学生らが集まりました。講師には、デンマーク王立美術大学にて、家具デザイン界の巨匠ポール・ケアホルムから直に学び、岡田心准教授（情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻）の学生時代の恩師でもある村上太佳子氏（アトリエ・トリフォイル代表、名古屋芸術大学名誉教授）をお招きしました。

講演では、1920年代から1960年代に優れたデザイナーや優れた職人を輩出したデンマーク家具デザインについて、歴史的背景・世界情勢を交えながらお話が進みました。デンマークデザインのカギとなる信条や、デザイナーだけでなく職人のおかげで良いモノができたことなどを説明。当時のデザイナーの紹介とともに、さまざまなイスのデザインを見せていただきました。

最後には、デザイナーを目指す学生たちに、良いデザインをつくるには「急がないこと」「自分のコンセプトを持つこと」が大事だと語りかけました。

理事人事

●就　任（任期H26.8.30～H27.8.29）

【理事】

髙村　誠一　（学）大同学園 法人本部副本部長
小澤　正俊　大同特殊鋼（株）代表取締役会長
髙木　英樹　名古屋鉄道（株）代表取締役専務

●退　任（H26.8.29）

【理事】

髙山　剛　大同特殊鋼（株）相談役
大西　哲郎　名古屋鉄道（株）代表取締役専務

人　事

●採　用　【法人本部】
＜事務職員＞（H26.8.1）
髙村　誠一　法人本部　本部長付

●採　用　【法人本部・大学】
＜事務職員＞（H26.10.1）
丸山　義彦　企画調整部 情報室 主任部員 特任職員
八田　忠　大学事務部　教務室

大同大学 DAIDO UNIVERSITY
DAIDO CAMPUS No.83 2014年12月10日発行（季刊）
編集・発行：大同大学入試・広報室 〒457-8530名古屋市南区滝春町10-3 TEL052-612-6117 FAX052-612-0125
E-mail koho@daido-it.ac.jp URL http://www.daido-it.ac.jp

DAIDO CAMPUS

No.83 2014.12

http://www.daido-it.ac.jp/50th/campus/index.html

写真提供:アルバム委員会

大同大学 DAIDO UNIVERSITY

学生の勇姿!

ハンドボール部

東海学生秋季リーグ戦（1部）で男子全勝優勝！女子準優勝！

男子ハンドボール部が、東海学生秋季リーグ戦で全勝優勝を果たしました！これは、5年ぶり3回目（春季1回、秋季2回）の快挙です。

昨年から3季連続2位と悔しい思いをしてきましたが、そのリベンジを果たすためチームが一つに。全勝同士の対決となった最終戦（対中部大学）では、28-27という接戦を制し、見事勝利しました。おめでとうございます！

また女子ハンドボール部も準優勝を果たしました！女子も最終戦で全勝同士の戦いに（対中京大学）。初優勝を目指して戦いましたが、21-25と惜しくも敗れました。

男女とも11月に岐阜で開催された全日本インカレへも出場し、男子はベスト8に輝きました！今後の活躍も楽しみです！

レーシングカート部

第19回 L.I.K. 全日本学生カート選手権で総合優勝！！各専門誌にも掲載！

8月12日(火)～13日(水)、群馬県榛名モータースポーツランドで「第19回L.I.K.全日本学生カート選手権」が開催され、本学レーシングカート部が5年ぶり3回目の総合優勝を果たしました。

L.I.K.全日本学生カート選手権は、学生カーターたちの年に一度のビッグイベント。今年も全国各地から学生が集まりました。本学は6年連続18回目の出場、一昨年は3位、昨年は準優勝という成績を収めており、今年はさらに順位を上げ総合優勝を勝ち取ることができました。

この選手権はSS、FD、TIAの3つのクラスがあり、各クラスの上位入賞者にポイントが振り分けられる仕組み。本学はSSクラス、FDクラスの2クラスに参加しました。各選手粘り強い走りを見せ予選から多くのポイントを獲得することができ、FDクラスでは鈴木拓也さん（工学部 総合機械工学科 機械システム専攻2年）が1位に、SSクラスでは久保田清貴さん（同4年）が2位となるなど個人でも活躍しました。

また、この情報がレーシングカートを専門に扱う「ジャパンカート」10月号と、モータースポーツについて幅広く扱う「auto sport」9月号に掲載されました。

▲ジャパンカート10月号

来年は本学が幹事校となり、第20回の記念大会が岐阜県フェスティカサーキット瑞浪で開催される予定です！

喜びのコメント

久保田清貴さん（SSクラス2位／レーシングカート部部長）

予選7番手スタートから追い上げ、多くのオーバーテイクを決めることができました。決勝では一時首位に立ちましたが、惜しくも2位でフィニッシュとなりました。

大学に入学してからカートを始め今年で3回目の出場、現役最後の大会で初めての表彰台に上り、さらに大学総合優勝を果たすことができとてもうれしく思っています。

来年は岐阜県フェスティカサーキット瑞浪での開催なので、大同大学の連覇に向けて今後も後輩の育成、サポート体制の強化にも力を入れていきたいと思います。

鈴木拓也さん（FDクラス1位）

当日はとても良いコンディションで臨むことができました。予選ではなかなか抜かすことができず惜しくも2位と苦戦をしましたが、決勝で必死に追いかけて抜かすことができました。今回はすごく落ち着いて走ることができました。

個人でも優勝することができ、大学として総合優勝もすることができました。この結果はコーチや先輩方のサポートがあってのことだと思います。これからは1年生のサポートにも力をいれたいと思います。

＊当日のレース動画はこちら＊
racingkart webホームページ（決勝・表彰式）
http://www.racingkartweb.jp/news/others/2014/08/16/2653/
You Tubeチャンネル（予選・決勝・表彰式）
http://www.youtube.com/playlist?list=PLpEP8VBlnqkkooqb2ZrpLnWO7FtvUM4RQ

学生の勇姿!

武者康平さん（工学部 建築学科 建築専攻４年／武藤隆研究室）

「社会を変える“夢のゲーム”アイディア大募集」で特別賞を受賞しました！

公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団主催によるアイディアコンペ「社会を変える”夢のゲーム”アイディア大募集」で、武者康平さんが特別賞を受賞しました。

このコンペは、今までにない発想で社会を豊かにするゲームのアイディアを募集するもので、小学生から社会人まで、総数971件のアイディアが応募されました。

武者さんのゲームアイディア「振り込め詐欺をゲームで対策」は、警察や家族の協力のもと、お年寄りに対してオレオレ詐欺に代表される振り込み詐欺のシミュレーションを行うというもの。振り込み詐欺の対策だけでなく、ぼけ防止や安否確認などの利点も考えられています。

来たる超高齢化社会への提案であるこのゲームは、人や地域のコミュニティを設計する建築学生ならではの発想です。

ロボット研究部

204チーム・トーナメント「第21回かわさきロボット競技大会」で準優勝！

８月23日（土）・24日（日）、川崎市産業振興会館で“若者のものづくり登竜門”「第21回かわさきロボット競技大会」が開催されました。バトルロボット部門にはおよそ 260 チームがエントリーし、書類審査をクリアした 204 チームで優勝を争いました。

本学ロボット研究部は 4 チームが参戦。横山真平さん（工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻３年）がキャプテンを務め、石黒稜人さん・大崎晃弘さん・内藤貴志さん（同２年）を率いたチーム『大同大学ロボット研究部／ Cronus（クロノス）』が見事準優勝に輝きました。また、森健二さん（同３年）が率いたチームは松山工業賞を受賞しました。

バトルロボット部門は、脚・腕構造を持つラジコン型ロボットによる異種格闘技戦でトーナメント方式。横山さんは予選トーナメント（1 本勝負）で４戦勝ち上がり、決勝トーナメント進出。決勝トーナメント（3 本勝負）は３ブロックで行われ、そこでも 4 戦勝ち上がりブロック代表として、最終決戦「順位（1-3 位）決定リーグ戦」に駒を進めました。

順位決定リーグ戦の相手は、『近畿大学ロボット研究会／ vendetta』と本学ロボット研究部 OB の西嶋駿さん（卒業生：S10）がキャプテンを務める『KHK 歯車工房／下剋上・改』。結果は、1 勝 1 敗の本学ロボット研究部が準優勝、全勝の KHK 歯車工房が優勝。先輩に軍配が上がりました。

「西嶋先輩には在学中も、また卒業されてからもさまざまな大会・会場でいろいろなことを教えていただき、お世話になっています。次は先輩に恩返しの意味も含めて勝利し、優勝することが目標です！」と横山さん。ニコニコ笑顔で話してくれました。

▲西嶋さん（左）と横山さん（右）

▲横山さん（左）と大崎さん（右）

▲西嶋さん

週刊ロビ 58 号で ROBO-ONE Light 準優勝ロボットが紹介されました

デアゴスティーニが発行しているパーツ付き組み立てマガジン『週刊ロビ』58 号（2014 年 4 月 15 日発行）で、二足歩行ロボットによる格闘競技大会「ROBO-ONE Light」が特集され、今年開催された大会で準優勝した本学のロボット「ひてん２号」が紹介されました。

「ROBO-ONE Light」は、改造・自作ロボットでも市販のロボットでも参加できる初心者向けの大会であり、今年は２月 15 日（土）に東京で開催されました。「ひてん２号」は、正面から見ると板のように薄い脚部と、遊び心あふれる黄色のカラーリングが特徴的。今大会、長いリーチを生かした攻撃で決勝まで進みましたが、惜しくも敗れました。ロボット研究部は国内外のさまざまなロボット競技会に参加し、優秀な成績を修めています。今後の活躍にも期待です！

命をつなぐプロジェクト学生実行委員会

「あいち環境塾」特別公開講座で取り組みを発表しました

環境を基調とした地域づくりのリーダーの育成を目指して、平成 20 年度から愛知県と公益財団法人名古屋産業科学研究所が開講している人材養成塾「あいち環境塾」が、今年 11 月の「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」の開催を機に、特別公開講座（テーマ：持続可能な社会の実現に向けて私たちができること）を10月4日（土）に開講しました。

この講座で本学学生が多く実行委員として活躍している「命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会」が生態系ネットワークの形成・次世代の担い手育成の取り組み等について発表したほか、パネルディスカッションにもパネラーとして参加。自分たちの活動を積極的に PR しました。

学生の勇姿!

情報学部 総合情報学科 経営情報専攻／命をつなぐプロジェクト学生実行委員会

環境デーなごや 2014 に出展しました

9月13日(土)、久屋大通公園で「環境デーなごや 2014中央行事 〜広げよう!未来へつながる ESD 〜」が開催されました。

毎年ブース参加している本学。今年は経営情報専攻の学生が「リサイクルフラワーボトル」「風車工房」の制作ブースと「授業で取り組んだ環境プロジェクト」のパネル展示を、また本学の土木・環境専攻やプロダクトデザイン専攻、経営情報専攻の学生が多く参加している命をつなぐプロジェクト学生実行委員会が「竹取物語（間伐した孟宗竹のリサイクル）」の制作ブースを出展しました。

環境デーなごやは、市民・事業者・行政の協働のもと、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動を実践する契機とする行事として、2000 年からスタート。それぞれの地域で行う地域行事と成果を持ち寄り発表、交流、学びあう中央行事を毎年開催しています。

今年は、11 月に名古屋で開催されたESD ユネスコ世界会議に向け、ESDについて理解を深めてもらう機会とするとともに、子どもから大人まで楽しく学べる内容が展開されました。

▲経営情報専攻のブース

▲命をつなぐプロジェクト学生実行委員会のブース

緒川裕真さん(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻 1 年)

生物多様性条約第12回締約国会議(COP12)併設フェアに参加しました

10月6日(月)〜10月17日(金)に韓国の平昌(ピョンチャン)で開催された国連の生物多様性条約第12回締約国会議(COP12)の併設フェアに、緒川裕真さんが参加しました。

併設フェアでは、世界中の政府機関・NPO等のブース展示企画が行われ、本学園の奥村博司理事長が理事長を務めるNPO法人日本エコロジスト支援協会も知多半島企業緑地の生態系ネットワークを構築する「命をつなぐプロジェクト」をテーマにブース出展。この展示ブースのブースコメンテーターの一人として命をつなぐプロジェクト学生実行委員の緒川さんが参加し、世界各国の参加者と積極的に交流。命をつなぐプロジェクトの活動内容を紹介しました。

また、10月15日(水)には愛知県主催のサイドイベントも開催され、2010年に名古屋で開催された国連の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で採択された愛知ターゲットの達成に向けた地方自治体の役割について、大村秀章愛知県知事による基調講演が行われたほか、スペイン、韓国、カナダ、ブラジルからの代表者と大村知事を交えてのパネルディスカッションが行われました。緒川さんは、このイベントの会場係としても活躍しました。

NPO法人日本エコロジスト支援協会理事でもある大東憲二教授(経営情報専攻)も愛知県のサイドイベントに合わせて現地へ。緒川さんの活躍に感心し、緒川さんをはじめとする経営情報専攻の学生たちが、グローバル人材となってくれることを期待していますと話していました。

▲大村知事と記念撮影

▲大東教授(左から2人目)、緒川さん(左から3人目)

アルバム委員会の学生による撮影レポート

体育祭

10月18日(土)、19日(日)、学生会執行委員会主催の体育祭が行われました。今年は天候に恵まれ絶好の体育祭日和、サッカーには131人が参加するなど、多くの学生が集まりました。

今年は新たにドッジボールが開催されました。男女混合で楽しめるようルールが定められており、参加した人たちは真剣になりつつも、楽しそうな雰囲気で競技に参加していました。また、日が暮れかけるまで続いた競技もありましたが、最後まで白熱した試合が続いていました。

学業の時とは違った真剣な表情に、アルバム委員会も、いつも以上に撮影に力が入りました。

<ソフトボール>
優　勝　The・TAKAHASHI
準優勝　ゴメース
３　位　Si☆BREAKER
<ドッヂボール>
優　勝　チームフェニックス
準優勝　インテリアーズ
３　位　光田研究室
<テニス>
優　勝　俺様の美技に酔いな
準優勝　なんちゃってにすぶ♡
３　位　チョコボーイ山口
<サッカー>
優　勝　足猿
準優勝　よしかね
３　位　ラーメンマンズ
<バドミントン>
優　勝　AYUMINTON feat YOSHI
準優勝　ふるたつ
３　位　伊藤齋藤ペア

レガッタ大会

11月9日(日)、クラブ委員会主催のレガッタ大会が開催されました。クラブの部 18 チーム 90 人、一般の部6チーム30人の参加がありました。

今年は雨天となり、午前のみの大会となってしまいましたが、みなさんやる気に満ち溢れており、雨の中でも真剣な表情で競技に挑んでいました。チーム一丸となって一生懸命ゴールを目指している姿を見て、この大会を通してお互い、より絆を深められたのではないかと思います。大会に参加された方々、応援をしていた方々など、笑顔に溢れていてとても楽しめたのではないかと思います。午前だけではありましたが、みんなの思い出に残る素晴らしい大会になったと思います。

<クラブの部>
優　勝　去年のオカマ(音楽研究部)
準優勝　！すでのな(E.D.P.S. 部)
３　位　DMSC(モーターサイクルスポーツ部)
<一般の部>
優　勝　山田錦
準優勝　大同 筋肉室
３　位　大同 インテリジェンス

工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻／ロボット研究部

ケーブルTV『アマチンアワー！』に出演しました！

10月7日（火）20：00～20：54放送、スターキャット・ケーブルネットワーク　キャットチャンネル『アマチンアワー！』に、尾形和哉教授、西堀賢司特任教授、橋口宏衛講師（ロボティクス専攻）とロボット研究部の学生らが出演しました。

『アマチンアワー！』は、アマチンさんこと天野鎮雄さんがキャスターとなり、毎回地産地消、安全、職人こだわりの食べ物、企業の工場見学、伝統産業や文化歴史など、この地域を中心に東海地方のさまざまな場所に出かけ、1時間かけてその魅力をたっぷりと紹介する番組。今回、本学のロボット研究が取材を受けることになりました。

今回の番組テーマは“こんなこともできるんです！挑戦するロボットたち！”。始めに、尾形和哉教授が研究しているサッカーロボットが紹介され、尾形研究室が毎年出場しているロボカップサッカー中型リーグで使用しているサッカーロボットを使って、ボールの認識の仕方やボールを蹴る時、フィールドを動く時の仕組みについて説明がなされました。次に紹介されたのが、西堀賢司特任教授が研究開発を進めた絞りロボット。西堀特任教授は、伝統工芸である有松鳴海絞を手掛けている近清商店から依頼を受け、だれでも簡単に絞り加工ができるロボットを開発しており、

▲出演したロボット研究部のメンバー

実際に出演者に絞り染め体験をしていただきました。最後は橋口宏衛講師が研究しているGPSロボット。災害時や農薬散布時などに役立てられるように開発を進めている自動運転ロボットについて紹介されました。その他にもロボット研究部の横山真平さん、森健二さん（ともに工学部 総合機械工学科　ロボティクス専攻3年）が自分たちで製作している二足歩行ロボットや多足歩行ロボットについても紹介しました。

武藤隆研究室（工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻）

「近代日本住宅伝説」展の出展物を制作しました

7月5日（土）から8月31日（日）に埼玉県立近代美術館で開催されたイベント「近代日本住宅伝説-挑発する家・内省する家」において、武藤隆研究室が展示物のひとつ、安藤忠雄「住吉の長屋」模型（1/50スケール）の制作を担当しました。

この展覧会は、戦後の1950年代から1970年代までの建築に焦点を当て、著名な16人の建築家16作品を、建築家のコンセプトとともに紹介するもの。今や伝説ともなった戦後日本の、挑発する、あるいは内省する建築作品から、建築家が「住まい」という私的な空間をどうとらえ、どう表現しようとしたかを探った展覧会となりました。

渡部裕子研究室（情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻）

展示「文字の可能性～日本を感じる～」を開催しました

7月16日（水）～7月28日（月）、情報学部　情報デザイン学科　メディアデザイン専攻　渡部裕子研究室の学生8人が、本学創立50周年記念展示室で前期の課題作品を展示した「文字の可能性～日本を感じる～」を開催しました。渡部研究室の学生が常駐しており、自分たちの作品の特徴などを説明しました。

期間中には、オープンキャンパスも開催され、学生たちは来場したたくさんの高校生や保護者を前に、自分たちの作品をPRしました。

白石裕之研究室（工学部 機械工学科）

第137回東海燃焼セミナーでポスター発表を行いました

9月30日（火）、名古屋大学で日本燃焼学会・東海燃焼セミナーが開催され、白石裕之教授（工学部 機械工学科）の研究室から佐橋慧さん・竹村彰洋さん・服部章吾さん（4年）の3人がポスター発表を行いました。

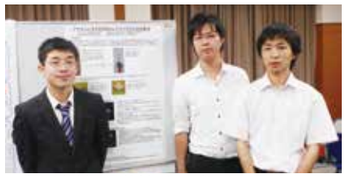
このセミナーは、東海地区の燃焼関連の研究室メンバーを中心に、燃焼シンポジウムなどで発表を予定されている研究や進行中の研究についてポスターセッション形式で発表を行っており、研究室の若手や大学院生らが気楽に討論を行い、交流を深めることを目的としています。

今回は23件、52名の応募があり、白石研究室は「アセチレンガスを燃料としたマイクロ火炎の発生」について、発表しました。

白石研究室では航空宇宙熱流体力学に関する研究として、重力の影響を受けず方向を問わず局所的に加熱することができる1mm程度以下の炎（マイクロ火炎）を研究しています。この火炎はウルトラマイクロガスタービン、ロータリーエンジン、レシプロエンジンなどの発熱源として用いる試みもなされています。また、マイクロ火炎には煤の発生抑制効果もあり、研究室では一般的な火炎では煤が発生しやすいアセチレンガスを燃料として用いてもマイクロ火炎であれば煤は抑制されるという結果を得られました。

このとき撮影した写真の一部は12月に開催される第51回燃焼シンポジウム会場で開催される「美しい炎」の写真展にも出展予定です。

発表した学生たちからは、「航空宇宙熱流体力学に関する研究で地球上とは違った環境を模擬し、研究を行いました。実験器具などを自作して成果が得られた時はとても嬉しく思いました。この分野に関する研究が今後も発展していくことと、興味を持った方が増えると嬉しく思います。」と話してくれました。


▲左から佐橋さん、竹村さん、服部さん

NEWS 学科・専攻／研究室

嶋田喜昭研究室（工学部 建築学科 土木・環境専攻）

中日新聞で交通事故に関する調査・研究が紹介されました

6月20日（金）中日新聞県内版に、嶋田喜昭研究室の研究内容が紹介されました。嶋田研究室は、交通工学を専門としています。2001年に新成人になる豊田市内の2,000人を対象として、思いやりや責任感、判断力などを判定するアンケート調査を実施。過去の事故経験の有無と組み合わせて分析し、他人など周囲への思いやりがある人は事故を起こしにくい傾向があることが分かりました。また、他の設問の回答などとも関連させて分析すると、事故を起こした人の多くは自己中心的、無事故の人は対人関係を築くのがうまいという傾向も表れました。

嶋田教授は、交通ルールを守り、事故を起こさないドライバーになる第一歩として、まずは自分の性格を知ってほしいと呼びかけています。

▲中日新聞（6月20日）

横井健二研究室（情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻）

恵那市福祉施設での卒業研究の取り組みが中日新聞で取り上げられたほか、作品が恵那市役所に展示されました

6月24日（火）の中日新聞東濃版に横井健二研究室の学生による卒業研究の取り組みが掲載されました。

横井研究室は、恵那市明智町の障がい者福祉サービス施設「明智ひとつばたご」と協力して絵はがきのデザインと商品化に取り組んでいます。

横井研究室の指導学生の家族に、市の社協職員がいたことがきっかけで商品の共同開発が実現。昨年の11月ごろから打ち合わせを重ね、絵はがきを施設独自のグッズとして商品化することに決め、今年度内での商品化を目指します。

はがきは牛乳パックを再利用した手すきで、施設の人気商品。そこに通所者が作成した版画、絵の具を水面に浮かべた模様を写し取る絵画技法「マーブリング」を用いた模様を入れることで魅力ある商品とすることを目指しています。横井教授は「この施設らしい商品開発とブランド化が主眼。気持ちのこもった製品を、どうアピールするかを考えた」と話しています。

6月20日（金）には関係者が施設に集まり初めて試作に取り組み、横井教授と指導学生の小粥敬祐さん、岩田杏里紗さん（ともにプロダクトデザイン専攻4年）らが通所者の制作活動をサポートしました。版木制作では板に輪ゴムやボタンなどを貼り付けた独創性のある図柄が作られました。

小粥さんは「自分たちの代で取り組みの土台をつくり、後輩に引き継ぎたい」、岩田さんは「今日は利用者の技術を確認した。とても器用で他にも面白いものができそう」と話しています。

そして、9月には恵那市役所のロビーで作品が展示・お披露目されました。今後も地域と連携してプロジェクトが進められます。

「第16回日本感性工学会大会」で世界に一つの価値を生む現場の取り組みを発表しました

9月4日(木)～6日(土)、中央大学の後楽園キャンパスで「第16回日本感性工学会大会」が開かれ、情報学部　情報デザイン学科　プロダクトデザイン専攻 横井健二研究室の岩田杏里紗さんと小粥敬祐さん（ともに4年）が一般セッション発表に参加しました。

今大会のテーマは「進化する感性」。ふたりは「医療／デザイン分野」で、6月に中日新聞で紹介された恵那市明智町の障がい者福祉サービス施設「明智ひとつばたご」との共同開発プロジェクトについて発表しました。

施設の通所者が制作する商品のブランド化を目指して、この施設ならではの魅力的なもの、他では真似できないここだけのものを検討しているこの取り組み。施設のキャッチフレーズやロゴ／マークデザインの提案、落款・ラベルを制作した事例、また商品化されている牛乳パックを再利用した手すきはがきに「版画」や「マーブリング」の絵画技法を取り入れた絵はがきの考案、さらには通所（制作）者の特性と作風から新たなる制作物の検討、そして展開等について発表しました。

▲岩田さん

▲小粥さん

情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

2014恵那産業博覧会に色彩コマ体験のブースを出展しました

10月25日(土)、岐阜県恵那市のまきがね公園体育館で「2014恵那産業博覧会」が開催され、横井健二教授(プロダクトデザイン専攻)とプロダクトデザイン専攻の学生4人が、体験ブースを出展しました。

このイベントは、岐阜県恵那市内の産業が一堂に会し、恵那市のモノづくりを市内外の人に知ってもらうほか、市内小中学生、高校生、県内大学などと連携することで子供たちに地元産業への理解と認識を深めてもらい、将来のモノづくりを支える人材を育成することを目的として開催されました。

本学は、色彩コマ体験のブースを出展。コマの表面の色を塗り分け、できたものを回すとその表面の色彩が混色されて他の色になってしまうという混色実験を簡単な工作を通じて体験してもらいました。ブースには、小学生や幼児、保護者など約180人が訪れ、終日大盛況となりました。

情報学部 総合情報学科 経営情報専攻

授業「海外事情1(アメリカ短期留学)」の報告会を開催しました

10月16日(木)、情報学部 総合情報学科 経営情報専攻2年生が、授業「海外事情1(アメリカ短期留学)」の報告会を開催しました。

経営情報専攻では、必修科目「海外事情1」で2年次の夏休みにアメリカ短期留学を全員が経験します。今年は、8月13日(水)から9月8日(月)まで、経営情報専攻2年生36人がアメリカオレゴン州立大学へ留学しました。

報告会では、学生が司会を務めながら①アメリカ短期留学のスケジュールや概要など主な内容について、②グループワークの成果について、③アメリカ短期留学を通じて感じたことなどを日本語だけではなく、英語を使ってプレゼンテーションしました。英語の授業のほか、ラフティングやアメリカンフットボールの試合観戦、買い物・自炊などアクティビティについて自身の感想や後輩へのメッセージ・アドバイスなども交えながら話しました。

また、最後には引率された小澤茂樹准教授(経営情報専攻)から総括として今回の留学の目的や達成度、今後の課題などについて話がありました。今回の留学から始めたこととして、自炊や留学前後のTOEICの受験、グループワークを通した異文化理解を挙げ、学生たちからも留学前より英語のスキルが向上した、主体性や協調性が身についた、積極的に行動できるようになったなどの感想があり、多くの学生が自身の成長を感じることができたようです。

佐藤夢子さん・小関在さん(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻4年)

第27回におい・かおり環境学会でベストプレゼンテーション賞をW受賞！！

8月27日(水)～28日(木)、文京学院大学(東京都)で公益社団法人におい・かおり環境協会主催、第27回におい・かおり環境学会が開催され、佐藤夢子さんがベストプレゼンテーション賞(口頭発表部門)を、小関在さんがベストプレゼンテーション賞(ポスター発表部門)をそれぞれ受賞しました！

今回の学会で、本学かおりデザイン専攻が関わった研究発表はなんと13題。口頭発表・ポスター発表それぞれの部門で1題ずつしか選ばれない賞を両方とも本学学生が受賞するという、大変喜ばしい結果となりました。

▲左:小関さん、右:樋口学会委員長(立命館大学)

▲右:佐藤さん、左:樋口学会委員長(立命館大学)

ベストプレゼンテーション賞(口頭発表部門)

「寝具への付着臭の特性とその対策 第1報 枕カバーへ付着した頭皮のにおい特性」

佐藤夢子さん・小河和貴さん(卒業生:D10)

ベストプレゼンテーション賞(ポスター発表部門)

「天然精油を用いた溶剤臭の感覚的消臭効果の検討」

小関在さん・玉井里奈さん(同3年)・廣瀬正幸さん(同4年)

工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻

「わくわくワールド2014」にロボットを出展しました

工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻は10月5日(日)に豊田市トヨタスポーツセンターで開催された「わくわくワールド2014」にロボットを出展し、操縦体験を実施しました。わくわくワールド2014は、トヨタ技術会による「TESフェスティバル2014」と豊田市による「とよたものづくりフェスタ2014」が共同で開催するものづくりのイベントです。

今回のイベント出展のタイトルは「おもしろロボットを動かそう！」で、情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻の横山弥生研究室の協力により改装した空中ブランコロボットや改良した有松・鳴海絞りロボットとロボット研究部の協力による小型2足歩行ロボットの操縦体験を楽しんでもらいました。あいにく当日は台風の影響で雨模様でしたが、約5,500人の来場者で会場はモノづくりと各種の体験で賑わっていました。

新刊紹介

『生産加工学 －ものづくりの技術から経済性の検討まで－』

共著:井上孝司教授(工学部 機械工学科)

切削、研削、工作機械、特殊加工など加工全般の基礎についての教科書。理論的な説明と実際の加工現場での用いられ方について説明をバランスよく配置し、体系立てて理解できるようにした。章末にコラムとして関連エピソードも記述。

井上教授は、1章:工作機械、2章:切削工具、3章:切削加工条件、4章:フライス加工、5章:穴あけ加工、6章:切削機構、8章:超音波加工、10章:レーザ、13章:フォトファブリケーション、14章:機械加工の経済性を担当しました。

著　者:井上孝司・Petros Abraha・酒井克彦
発行所:株式会社コロナ社
発行日:2014年11月7日
174ページ　ISBN 978-4-339-04628-1
定価:2,700円 (本体2,500円+税)

『ようこそ建築学科へ！建築的・学生生活のススメ』

共著:武藤隆教授(工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻)

建築学科と言っても大学、高専、専門学校、住居系、芸術系、工学部系はどう違う?そんな学科紹介に始まり、授業と課題に取り組むツボや“建築的”日常生活、学外での建築体験、そして将来設計まで、知れば知る程のめり込む、ハードだけどハッピーな建築学生ライフのススメ。学生生活のあらゆる場面でためになるアドバイス満載。

武藤教授は、p170-171「オープンデスクに行こう」を担当しました。

監　修:五十嵐太郎
編　著:松田達・南泰裕・倉方俊輔・北川啓介
出版社:学芸出版社
発行日:2014年3月25日
216ページ　ISBN 978-4761513368
定価:1,800円(税別)

『マイクロビームアナリシス・ハンドブック』

共著:堀尾吉巳教授(工学部 電気電子工学科)

科学技術と産業の基盤となる「最新ナノテク分析・評価技術」を網羅

マイクロビームアナリシスは、電子・イオン・電磁波を用いた物質の局所分析技術の総称であり、最先端の分析用電子顕微鏡等の技術革新を背景に、原子分解能観察が必要なナノテク開発を牽引するとともに、金属・半導体・化学等の基礎分野から、最近特に革新著しい高分子・バイオ・医学分野における材料・デバイス等の高度解析と分析評価技術を支えています。

編者のマイクロビームアナリシス第141委員会は、この分野を代表する世界的組織であり、最先端の研究開発陣が執筆する本書は、革新的な表面分析技術、評価技術等を中心にその全体像を網羅しています。

材料の評価(キャラクタリゼーション)により所望の情報を得るための分析手法の適切な選択や、新しい分析システムの構築には、それぞれの分析測定法に関して原理から操作性にいたるまで、その特徴を十分に熟知していなければなりませんが、その手引きとなるのが本書です。

研究開発者、技術者が長期に使える座右の書となるもので、今後本技術に関わる学生・院生にも読みこなせるよう配慮されています。

堀尾教授は第1編基礎編 第2章各種分析法 2.4 電子線を利用した分析法・構造解析法の「2.4.4 反射高速電子回折(RHEED)」(p.233-237)を担当しました。

編　者:日本学術振興会　マイクロビームアナリシス第141委員会
発行者:村上和夫
発行所:株式会社オーム社
発行日:平成26年6月30日
大型本・736ページ　ISBN 978-4-274-50496-9
定価:20,000円(税別)

『図説 西洋建築の歴史－美と空間の系譜－』

著者:佐藤達生教授(工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻)

初版(2005年8月出版)が好評につき、「美と空間について」の項と著者あとがきを追補し、表紙を刷新して、増補新装版として出版。ギリシア、ローマ、ロマネスク、ゴシック、バロック。2500年に及ぶ壮大な西洋建築の歴史を読みとく、決定版ガイド。河出書房新社「ふくろうの本」シリーズ。ベストセラーに入っており、全国学校図書館協議会選定図書にも指定されています。

第1章　様式の二つの流れ(二つの世界、様式の二つの系統、ヨーロッパ建築の流れ ほか)
第2章　古典系建築の流れ(ギリシア建築、ローマ建築、ルネサンス ほか)
第3章　中世系建築の流れ(キリスト教建築の始まり、ロマネスク建築、ゴシック建築 ほか)

出版社:河出書房新社
発行日:2005年8月30日初版発行
2014年8月20日増補新装版初版印刷
2014年8月30日増補新装版初版発行
148ページ　ISBN 978-4-309-76220-3
定価:1,800円(税別)

澤岡昭学長

NHK総合テレビ『NEWS WEB』に2度、生出演

9月17日（水）、澤岡昭学長（JAXA技術参与として国際宇宙ステーションの応用利用計画を推進。現在は研究総括も務める）がNHK総合テレビ『NEWS WEB』に生出演。スペースシャトル後継機について、コメントしました。

アメリカのNASAが、3年前に引退したスペースシャトルの後継機となる有人の宇宙船を開発する企業に、大手航空宇宙メーカー「ボーイング」とベンチャー企業「スペースX」の2社を選び、2017年の運用開始を目指すと発表したことを受け、澤岡学長が特集コーナー「深知り」に専門家として招かれました。「委託された2社について」や「NASAはなぜ民間企業に委託したのか」、「有人宇宙船を巡るアメリカの戦略について」や「今後の日本の宇宙開発のあり方」、さらには番組によせられた疑問・質問ツイートにコメントしました。

また、10月29日（水）にも生出演し、ロケット打ち上げ失敗についてコメント。

国際宇宙ステーションに物資を運ぶためアメリカの民間企業が開発したロケット「アンタレス」が、アメリカバージニア州で打ち上げに失敗し、爆発しました。このロケットは国際宇宙ステーションに食糧や実験材料などを載せていました。

コストダウンのため、宇宙開発への民間参入が進められている中、「打ち上げに失敗したロケットはどんなものだったのか」、「今回の失敗が今後の宇宙開発にどう影響するのか」、「爆発したロケットに何が起きたのか」、「日本の宇宙産業への影響は」等、番組によせられた疑問・質問ツイート（3143件）に澤岡学長が解答・コメントしました。

鷲見哲也准教授（工学部 建築学科 土木・環境専攻）

台風11号に関するコメントが朝日新聞に掲載されました

8月12日（火）の朝日新聞朝刊、台風11号による三重県の避難指示問題を取り扱った記事で、鷲見哲也准教授のコメントが掲載されました。

記事では、台風11号による大雨特別警報を受け、四日市市と鈴鹿市が避難指示を地区ごとに行わず、市内全域に避難指示を行ったことに対する議論が取り上げられています。

これに対し鷲見准教授は、「避難指示は危険な地域を限定してこそ効力が強まる」など、今後の避難勧告や指示のあり方についてコメントしました。

メ～テレ『UP!』に出演し、中小河川の氾濫について解説しました

9月9日（火）、メ～テレ『UP!』（毎週月～金、18：15～放送）、「暮らしの防災」コーナーに鷲見哲也准教授が出演しました。

今回のテーマは「身近な川も増水の危険」。今年の8月に起きた豪雨によって高山で中小河川の氾濫、護岸の決壊、橋の流失などの被害が発生したことに触れ、ゲリラ豪雨による中小河川の氾濫がテーマとされました。

そして4年前の2010年7月の岐阜県可児川での氾濫で3人の死者行方不明者が出た現場を取材。鷲見准教授も同行し、なぜ木曽川の支流である小さい可児川で氾濫が起きたのかについて、ゲリラ豪雨による大量の雨が小さい流域の狭い範囲に降ることや、中小河川ほど川の数や長さが膨大になり、予算、工事の時間・調整がついておらず、予定の護岸工事が進まない場所が多くあり、被害が起きやすい条件になっていると解説しました。

また、このような中小河川では降ってからどのくらいで水位が上昇するのかをまずは知ること、上流の降雨の状況をレーダーなどで把握すること、ハザードマップなどを使って、普段から自分の土地や建物が高いのか低いのかをあらかじめ知っておくことが大切であり、これまでに氾濫が起きなかったからと言って安心せず、普段の川の水の変化に注意してほしいと話しました。

佐藤壮一郎准教授（情報学部 総合情報学科 経営情報専攻）

ハンドボール日本代表男子U-21チームを30年ぶりにジュニア世界選手権へ導く

本学男子ハンドボール部監督の佐藤壮一郎准教授が監督を務めるハンドボール男子U-21代表が、第14回男子ジュニアアジア選手権で3位の成績を収め、2015年に開催される男子ジュニア世界選手権への出場を決めました！

日本代表のジュニア世界選手権への出場は、1985年が最後であり、今回はそれ以来の30年ぶりとなります。また、1988年に第1回ジュニアアジア選手権がジュニア世界選手権の予選として始まって以来、初出場となる歴史的快挙です。

U-21チームは、8月2日（土）から14日（木）にイランで開催された第14回男子ジュニアアジア選手権に出場。予選リーグを4勝1敗の2位で通過すると、準決勝では韓国に敗れたものの、世界選手権出場を賭けた3位決定戦でイランに33−32で勝利し、出場権を獲得しました。

選手権を終えた佐藤准教授は、「今春、東京オリンピック世代のU-21日本代表男子監督の要請を受けました。大学関係者のご配慮により就任させていただき、5月23日から大会まで、毎週（金・土・日）の合宿を実施しました。途中、思考能力がなくなるぐらい辛い時や主力の怪我などに悩まされましたが、全てを前向きに捉え、やれることを一つひとつ潰していった結果、30年の扉を開くことができました。」と話していました。

トコトン先生 大活躍！

西堀賢司特任教授（工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻）

講演会「達人と話そう」で講演しました

6月28日（土）、名古屋大学博物館で講演会「達人と話そう」が開催され、西堀賢司特任教授が講演しました。

西堀特任教授は、「ロボットと暮らす日が来るか」というテーマで講演を行い、役に立つロボットとして多くのマスコミで報道されている西堀研究室で制作した「絞りロボット（伝統工芸の鳴海・有松絞のくくり作業を自動化したロボット）」を紹介しました。

講演会には定員の2倍の申し込みがあり、抽選が行われるほど大盛況となりました。

佐藤達生教授（工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻）

NHK文化センターの講師を担当しました

4月から9月までの毎月1回、NHK名古屋放送センタービル7階で、佐藤達生教授が講師を務める講座「西洋建築の歴史～美の思想、空間の思想～」が開講されました。佐藤教授は、西洋建築史を専門としており、この講座では西洋建築の歴史を美を追求した古典系の流れと、空間を追求した中世系の流れの二つの原理から分かりやすく説明しました。参加者からも大変好評だったようです。

そして11月27日（木）にも佐藤教授が講師を務める講座「西洋建築の歴史特別編・パリ周辺の中世教会堂」が開講され、パリとその周辺部に散在するこれまで日本ではほとんど知られてこなかった中世教会堂の様式的特徴を現地調査の成果に基づいて解説しました。

加藤和雄教授（工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻）

株式会社スペースで講演を行いました

▲加藤教授（一番左）他、㈱スペースの取締役、常務、卒業生ほか

9月6日（土）、株式会社スペース名古屋事業本部で講演会「インテリアデザイン＝f(x) ―インテリアデザインの領域性 × 段階性とその要素― 倉俣史郎のインテリアデザイン分析」が行われ、加藤和雄教授が講演を行いました。

㈱スペースは、日本を代表する商業施設の総合企画・設計・施工会社であり、加藤教授も30年前に勤務していたほか、本学の卒業生も多く勤務しています。

講演会では、20代から60代までのデザイナー200人以上が参加しました。加藤教授は、インテリアデザインの領域性と段階性を通じ、世界的インテリアデザイナー倉俣史郎の時代的背景、人生、家具、インテリアのデザイン、その思考性、空間生成、空間構成等について、博士論文を引用しながら倉俣の感覚世界をできる限り客観的に解説しました。またインテリアの幅広さ・奥行きについて、個人・企業の経験・体験を共有・客観化し、社会・後世に伝えることの重要性について説明しました。

講演後、本学卒業生から「デザイナーとして大切なことは？」という質問があり、加藤教授は「デザイナーである前に1人の魅力的な人間であること、周囲を観察すること、他者への気遣い・思いやること、周囲のヒト・コト・場から影響を受けているという自覚・認識が必要であり、俺が、私のデザインはという前に、謙虚な姿勢で周囲の状況をよく把握することが極めて重要である。それにより自らのオリジナリティが芽生えてきます」と熱く訴えかけました。

MESH環境デザインセミナーにコメンテーターとして参加しました

11月7日（金）、東桜会館で第91回MESH環境デザインセミナーが開催され、加藤和雄教授がコメンテーターとして参加したほか、大島健正さん・榊原伸男さん（工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻3年）がプレゼンテーションを行いました。

このセミナーは、インテリア・建築・環境・プロダクトなどを学ぶ空間デザイン系の学生と若いデザイナーを対象として、年に数回開催されており、毎回日本を代表する空間デザイナーにご講演いただいています。今回は約50人の参加がありました。

セミナーでは始めに、中部地域で活躍中の建築家　長谷川有氏をお招きして、「現場にすべてが落ちている」と題して講演が行われたほか、長谷川氏と加藤教授、環境心理学者・デザインディレクターの椙山女学園大学　橋本雅好准教授との対談も行われました。長谷川氏は、主に商業空間（飲食・サービス）においてインテリアから建築まで手がけ、人間性と存在感のある空間を創出してこられたこの地域を代表する建築家。長谷川氏の1989年から2014年までの作品が紹介され、場所、クライアント、顧客、職人等の絡み合った要因から、常に規制の枠にはまらない自由スタンスで、臨機応変にさまざまな空間表現を創出された設計事例を熱く語られました。講演の最後には、「忘れてはいけないことがある。一度壊してしまったものは二度と戻らない。26年前に施主の思い出を壊してしまったことがある。建築家は線一本の持つ重みを十分に考える必要がある。」と、建築家の社会的責任についての自覚、周囲への思い、感謝について参加者に訴えかけました。

また、最後には学生プレゼンテーションも行われ、本学の大島健正さん・榊原伸男さん、椙山女学園大学の学生が、建築・インテリア作品について発表しました。

小島一宏准教授（情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻）

あいち国際女性映画祭で作詞作曲した主題歌を披露しました

9月3日（水）～7日（日）、ウィルあいちで「あいち国際女性映画祭」が開催され、5日（金）に公式上映されたドキュメンタリー映画『架け橋 きこえなかった 3.11』のナレーションおよび主題歌を務めた小島一宏准教授が弾き語りで主題歌を披露しました。

映画『架け橋 きこえなかった 3.11』は、自らも聾者である今村彩子監督が、東日本大震災の被災地を丹念に取材し、現地の聾者たちがいかに不安を感じ、大変な思いをしてきたかをまとめた作品。大手のテレビ局や新聞では報道されなかった被災地の真実を通して、「命に関わる情報に格差があってはならない」という監督の、そして被災地の“ 聞こえない人たち ”の切なる思いが伝わってくる、考えさせられるドキュメンタリー映画です。小島准教授がその映画のナレーションを担当するとともに、映画とは関係なく3.11後に作詞作曲したオリジナル曲『1人じゃない』を監督が気に入り、映画の主題歌に起用されました。

上映後、今村監督、小島准教授のトークが行われるとともに、250人程の観客の前で、小島准教授が主題歌をピアノで弾き語りしました。小島准教授は「国際映画祭の大スクリーンで映画が上映され、自分の曲が流れたことは感慨深く、さらに生で歌わせていただけたことは本当に貴重な経験でした」と話していました。

愛知県警察本部 生活安全部長より「感謝状」を授与されました

9月29日（月）、愛知県警察本部 生活安全部長より「感謝状」を授与されました。

7月30日（水）に ウィルあいち（名古屋市東区）で開催された愛知県警主催の「第7回女性安全フォーラム」で「トーク術講座」を担当した小島一宏准教授。性犯罪被害を防ぐためにも、しっかりと思いを伝える大切さと、そのコツについて、ウィルホールに集まった700人ほどの女性に話しました。

終了後に回収したアンケートでは「トーク術講座」の評価が非常に高かったということで、小島准教授が「感謝状」を授与されました。

また来年のフォーラムでも是非話をして欲しいとの依頼もありました。

渡部裕子講師（情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻）

パリで開催されたJapan Expo2014に招聘、パフォーマンスと展示を行いました

7月2日（水）～7月6日（日）、フランス パリのParc des Expositions de Paris-Nord-Villepinte（パリ ノール・ヴィルパント国際展示場）でJapan Expo2014が開催されました。

日本のメディアでも必ず取り上げられるこの大きなイベントは、今年で15回目。今や代表的な日本文化として地位を確立したアニメ・マンガはもちろんのこと、書や工芸など伝統的でありつつも新しい日本の文化についても更に関心が高まっているせいか、5日間で25万人ほどのフランス人が訪れました。

この Japan Expo で渡部裕子講師は 3 日（木）、4日（金）にステージ公演を、また期間中作品展示を行いました。ステージ公演では、即興で文字を次々と生み出し立体に積み空間全体としての作品に仕上げる立体書のパフォーマンスを行いました。600 席はすぐに満席となり、立ち見も出るほどに。また、新しい日本文化を発信する WABI-SABI ゾーンでの作品展示では、その芸術的な書の新しいスタイルについて数多くのテレビ取材も受け、好評のうちに幕を閉じました。

横山弥生教授（情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻）

あいちサイエンスフェスティバルで講演しました

10月23日（木）、2011年よりスタートした愛知県全域で開催する地域科学祭「あいちサイエンスフェスティバル」のトークイベント「さかえサイエンストーク」で横山弥生教授が講演しました。

講演タイトルは、「数理が生み出す『かたち』アート－美の規則性を見てみよう」。我々の住む世界の美しいかたちの中に存在する数理的な規則とそんな世界を切り口にしたアート作品について紹介しました。

今回は18時30分から、飲食店での開催ということもあり、和気藹々とした雰囲気の中行われました。

トコトン先生 大活躍！

井上孝司教授（工学部 機械工学科）

台湾で開催された国際会議2014IC3MTで講演しました

8月31日（日）～9月5日（金）に台湾（台北市）で開催された「加工、材料および機械技術に関する国際会議（IC3MT）」で、井上孝司教授が CFRP 材のエンドミル加工特性について講演しました。この会議には、21ヵ国、約500人の参加がありました。

井上教授は、「The Machinability of CFRP with cutting Movement of End-milling」と題して講演。CFRP（Carbon Fiber Reinforced Plastic）材の強化材料として使用される炭素繊維の配向方向について、工具摩耗との関係から解析を行い、仕上げ面が良好となる切削条件を指摘したほか、ダウンカット法とアップカット法それぞれの切削様式での利点や欠点についても報告しました。

山田靖教授（工学部 電気電子工学科）

技術情報協会のセミナーで講師を務めました

6月24日（火）に東京都品川区で、セミナー「高温はんだ代替への銀・銅ナノ粒子による高耐熱接合技術と接合強度評価」が開催され、山田靖教授らが企業の技術者に対して講座を行いました。

山田教授は第3講座「パワー半導体の接合技術と信頼性評価 ～ Cu ナノ粒子接合を中心として～」を担当。自動車の電動化、次世代パワー半導体に続き、これらを実用化させる新たな接合技術に関して、最新の研究結果を含め、いくつかの事例を解説しました。

堀尾吉已教授（工学部 電気電子工学科）

第58回 表面科学基礎講座で講師を務めました

7月1日（火）～3日（木）、東京理科大学の神楽坂キャンパスで開催された第 58 回表面科学基礎講座「表面・界面分析の基礎と応用」で堀尾吉已教授が講師を務めました。

堀尾教授は 2 日目の講座「電子線解析法（RHEED／LEED）」を担当。この講座は、公益社団法人 日本表面科学学会の主催で、表面・界面分析の初心者、若手研究者、技術者を対象として行われました。

大東憲二教授（情報学部 総合情報学科 経営情報専攻）

リニア中央新幹線開発に関するコメントが中日新聞に掲載されました

8月27日（水）、中日新聞のＪＲ東海によるリニア中央新幹線開発について取り扱った記事内で、大東憲二教授のコメントが取り上げられました。

ＪＲ東海は26日（火）、リニア中央新幹線の工事認可を国土交通省に申請。それに伴い、工事により沿線に与える環境影響評価書（環境アセスメント）を修正し、環境保全処置など環境対策内容の具体化を行いました。

これに対し大東教授は、ＪＲ東海が環境保全措置を具体的に明記したことを評価する一方で、環境アセスメントの手続き終了後も、常に計画を修正しながら環境に配慮した工事を進めることを求めました。

日本弁護士連合会「公害対策・環境保全委員会における勉強会」の講師を務めました

9月11日（木）、弁護士会館（東京都千代田区霞が関）で日本弁護士連合会が「公害対策・環境保全委員会における勉強会」を開き、講師依頼を受けた大東憲二教授が講演しました。

日本弁護士連合会では、公害対策・環境保全委員会のリニア新幹線問題に関するプロジェクトチームにおいて、リニア新幹線建設にあたる公害対策等について検討を行っており、その一環として勉強会を企画。この問題に造詣が深い大東教授に講師の依頼がありました。

当日は「リニア中央新幹線の地下トンネル建設工事に伴う地下水等の環境への影響について」と題して講演しました。

本学経営情報専攻の非常勤講師 藤川誠二弁護士は、このプロジェクトチームのメンバーです。

堀川1000人調査隊会議で水質改善実験の中間報告を行いました

9月27日（土）、名古屋都市センターで市民と行政関係者等、およそ100人が参加した「第14回堀川1000人調査隊会議」で、大東憲二教授が「高濃度酸素溶解水注入による新堀川浄化実験」と題して、新堀川の浮島橋付近で実施している高濃度酸素を使った水質改善実験の中間報告を行いました。

この会議・取り組みは、堀川を愛する人の輪を広げ、堀川の浄化・再生の早期実現を目指しています。

工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻

X4デザイン専攻リレー展「学生作品展－私たちにみえるもの－」を開催しました

10月21日(火)～10月26日(日)、市民ギャラリー矢田でX4デザイン専攻リレー展「学生作品展－私たちにみえるもの－」が開催されました。

X4デザイン専攻リレー展は、本学デザイン系の専攻から4専攻、建築専攻・インテリアデザイン専攻・メディアデザイン専攻・プロダクトデザイン専攻がそれぞれ専門分野の魅力を広く学外の人たちにも知ってもらいたいという思いからスタートした展覧会です。

今回の展示では、学生たちが自ら展示運営業務を行ったほか、ハガキやポスターのデザイン、会場の展示レイアウトなども学生が担当しました。この展示では、建築専攻／インテリアデザイン専攻の学生が授業の課題で制作した設計作品のうち特に優れたものや、有志によって制作された設計作品を紹介。各々の作品には、建築やインテリアのデザインを通した彼らの社会に対するメッセージが込められています。

開催期間中には、大学生や高校生、企業の方など280名が来場しました。

情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

EV(電気自動車)のカラーリングコンテストを開催しました

情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻が、工学部 電気電子工学科 山田靖研究室からの依頼を受けて、EVカーのカラーリングを行いました。コンテストを実施し、プロダクトデザイン専攻の1年生から3年生まで13チーム(個人エントリー含む)のエントリーがあり、電気電子工学科とプロダクトデザイン専攻の教員らによる厳正な審査が行われました。

テーマは「躍動感！」。厳選なる審査の結果、何と1年生の林このみさんがデザインした「錦鯉」が選ばれました！

▲審査の様子

▲選ばれたデザイン画

▲塗装後のEVカー

第1回異分野交流会を開催しました

6月25日(水)、7月2日(水)の2週にわたって、第1回異分野交流会が開催されました。4月7日(月)第0回プレ開催を経ての始動です。

この交流会は、教員がそれぞれの専門分野と自身の研究・創作活動について、異なる分野の人たちと相互に解説・発表し合うことで、学科や分野を超えたつながりを作ることなどを目的として開催されており、斉田浩見准教授(教養部 物理学教室)と町屋修太郎准教授(工学部 機械工学科)が世話人を務めています。

6月25日(水)に開催された第1部では、斉田浩見准教授と渡邊慎一教授(工学部 建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻)が講演。斉田准教授は「ブラックホールとは何か？」と題して、いまだ存在する証拠が見つかっていないブラックホールとその測定法の考案について、分かりやすく解説がなされました。また渡邊教授は「屋外における暑熱環境緩和方法：日傘や衣服の効果」と題して、建物の陰に入ったり日傘を使用することで体感温度がどのくらい下がるのか、実験データを用いながら説明がなされました。

7月2日(水)には第2部を開催、町屋修太郎准教授と朝倉宏一教授(情報学部 情報システム学科 情報ネットワーク専攻)が講演しました。町屋准教授は「超伝導と原子力」と題して、核融合炉のための超電導材料について、自身の経験や原子力開発の歴史なども交えながら解説がなされました。また、朝倉教授は「ゲーム機だけじゃないアドホック・ネットワーク」と題して、アドホック・ネットワークの仕組みや災害対応への応用、利用した場合の難点などについて説明がなされました。

板金加工メーカー株式会社マウンテックとの産学連携プロジェクト「Xラーニング」表彰式が行われました

本学工学部 建築学科 建築専攻、インテリアデザイン専攻、情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻と愛知県津島市の板金加工メーカー「株式会社マウンテック」が協力し、これまでにない画期的なデザインの商品開発を目指す産学連携プロジェクトX-Learning(クロスラーニング)の表彰式が7月17日(木)、行われました。

残念ながら、今年度は商品化に該当する作品(最優秀賞)はなかったものの、2つのアイデアが特別賞に選ばれ、同社の山田剛士専務から賞状が手渡されました。

2012年春から始まったこのプロジェクトは2回目。デザインを学ぶ学生が、学年や学科の枠を超えて集まり、3チームに分かれて活動しました。2013年夏には同社の工場を見学し、そこで受けた刺激を元に、夏休み返上でアイデアを出し合い、学内プレゼン、同社への中間プレゼンを経て、2014年2月には最終プレゼンを実施。マウンテック社が最終審査を行いました。

今回受賞した防犯グッズを提案した情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻4年の仲村準也さんは、「活動を通じ、多くのことを学ぶ事ができました。社会に出ても生かしていきたいです。」と決意を話してくれました。バナナを掛けるハンガーを考案した同専攻4年の横井和志さんは「賞をもらえて嬉しい。仲間と先生のおかげです。」と笑顔をのぞかせていました。

Xラーニングで「IRON Kayari(アイアン蚊やり)」を開発、ついに製品化が実現！

産学連携プロジェクト「X-Learning(クロスラーニング)」で、従来にない構造・形状の蚊やりブタ「IRON Kayari(アイアン蚊やり)」を開発、ついに商品として販売されることとなりました！

この製品は、2012年4月に、本学とマウンテック社との間でスタートしたプロジェクトの成果で、学生有志が課外活動として「全く新しい鉄製商品を開発する」ことを目的にデザインを検討し、その後約2年半をかけてマウンテック社が製品化したものです。

マウンテック社の持つ板金加工技術を活用し、本学学生が新たな製品デザインの可能性を模索、アイデアを出し合いました。このような本学の取り組みは、地元企業からも注目されています。今後も本学は、こうした産学連携活動を推進していきます。

「伊勢湾台風55年 市民防災の集い」を開催しました

9月20日(土)11時から16時まで、本学滝春キャンパスで「伊勢湾台風55年 市民防災の集い」(主催：伊勢湾台風55年市民防災の集い実行委員会・南区役所)を開催しました。

この事業は、伊勢湾台風が名古屋に到来してから55年が経過しました。伊勢湾台風は南区や港区に大きな被害をもたらしました。しかし、年月の経過とともに台風を経験していない世代が増え、災害の記憶が薄れてきています。

この災害を語り継ぐことで、伊勢湾台風を知らない世代にも災害の恐ろしさを知っていただき、お互い助け合うことの大切さなど防災への意識を高めていただくことを目的として実施しました。

本学の大学祭実行委員会とアルバム委員会の学生が企画・運営に協力参加しました。

写真提供:アルバム委員会